ほんごう

新しい年を迎えて

民生児童委員協議会長
米倉　初美

新年あけましておめでとうございます。

通常の正月ですと、年が変わり今年一年頑張ろうと晴れやかな気持ちになれるのですが、今年は、新型コロナの影響でしょうか、何か心に掛かる気がしてしまいます。早く良いワクチンと薬が出来ますようにと願うばかりです。

令和元年12月1日、松本市民生児童委員として、委嘱状を身の引き締まる思いでいただきました。民生児童委員とは、地域の身近な相談相手であると、お話を伺いました。

少子化や核家族化によって地域のつながりが薄れる中、高齢者や障がいのある方、子育てや介護をしている方などが、周囲に相談できず孤立してしまうケースが増えています。そこで地域の身近な相談相手となり、支援を必要とする住民の方と行政や専門機関をつなぐパイプ役となって、私達民生児童委員は、日々活動しています。しかしながら昨年は、新型コロナの影響で活動を一時自粛しなければならない事態となって大変でした。必要なマスクが入手困難となり困っている高齢者が居るとの事からマスク作りを企画、福祉ひろばの協力をいただいて皆で作成し、お配りすることが出来ました。ミシンを持参し作業する中で、言葉を交わし、マスクが一つ又一つと出来あがっていくのが嬉しくて、参加した全員が、笑顔で元気になっていました。スタートして間もなくの自粛で、コミュニケーション不足が心配でしたが、吹きとんだのではないかと思いました。

我が家だけみていた只のおばちゃんが、32名もの地区の会長を、お引き受けして本当によかったのだろうかと悩み続けながらの一年間でした。委員の皆様や一緒に役員を引き受けて下さった方々、センター長やコーディネーターの皆様、縁するすべての方々のご理解とご協力により何とか務めさせていただいております。住民の皆様のお役に立てるように、より一層努力をし、充実した活動をして参りたいと思います。

令和３年１月１日現在	
人　口	14,274人
男　性	6,900人
女　性	7,374人
世帯数	6,726戸

with コロナ禍の三九郎づくり講習会

11月26日冬迫る寒空の下、子ども会育成会主催で三九郎づくり講習会が開かれました。コロナ禍で例年に比べると参加人数は少なめでしたが、参加した子どもたちは、自分たちで作り上げるべく熱心に大村町会の講師のみなさんのお話を聴き、手元を見ていました。

三九郎に病魔の退散を祈念します。

蕎麦の想い出「親子そば打ち教室」にちなんで

コロナ禍の中、12月19日に飲食無しで親子そば打ち教室が開催されたので、それにちなんで、自分の蕎麦にまつわる想い出を書かせていただきます。

生坂の田舎育ちの私にとって蕎麦は、極々普通で、ありきたりで、隣のおばちゃんが、〝今日、蕎麦を打ったで食べろや〟〝おざざ打ったで食べろや〟と言って持ってきてくれた物で、今では高価なご馳走となっている事が驚きです。2000年1月、69歳で逝った酒好きな父の年齢に近づきましたが、親父が元気で丸々と太っていた頃、ドンブリにソバ粉を入れて、チンチンに沸かしたお湯をかけ、割箸でカイッカイッとかき混ぜて「蕎麦がき」を作り、醤油をつけて旨そうに食べていたのを思い出します。

今年は、月命日の5日に蕎麦がきを作って仏壇に供えて、共に酒でも飲もうと思います。

御射神社秋宮例大祭

三才山トンネルに近い本村地区の御射神社秋宮で、10月11日宵祭りがありました。小日向神楽保存会の皆様による獅子舞い奉納があり、境内には明るい光がさしていました。翌日には本祭りがあり神事のみで例年通りにはいかない様子でした。しかし、押し鉾祝詞の声は天へと届いているものと思います。

10月21日には奥宮の例大祭が行われました。過去と少し異なる光景かもしれません。戦時中の昭和16年から20年までの例大祭がどうであったか想いを馳せたくなります。

この時期、このタイミング、「ついてない」って想いたくないです。参加された皆様、役員の方々お疲れ様でした。

本郷村は昭和49年5月1日に松本市に合併しました。

50周年記念誌編集にあたって

編集委員長　柳原

本郷地区は令和6年5月1日で松本市と合併して50年を迎えます。そこで、この50年を振り返り、次世代のためにと記念誌「あゆみ」を発行することになりました。

記念誌のコンセプトは①合併後の50年間の出来事を各分野から幅広くまとめていく。②単なる記録ではなく人の息使いが感じられるエピソードを拾い出す。③この記念誌が次の50年を考える礎になるような内容にしていく。

この3点を考えて多くの方に読んでいただけるよう編集していきたいと思っています。

左の写真は合併調印式の様子（松本市文書館所蔵合併記念式典パンフレットより）。

松本市長・深澤松美氏（右）と本郷村長・三浦忠夫氏（左））

この50年のあゆみ

昭和45年3月	松本市、本郷村に合併を申し入れる
47年10月	三才山トンネル工事着工
49年5月	本郷村　松本市と合併
50年4月	本郷南幼稚園開園
50年7月	松本社会文化会館（浅間温泉）、落成
50年9月	本郷有線放送電話自動化完成開通式
51年10月	三才山トンネル有料道路供用開始
53年1月	第33回国体冬季大会スケート競技開催
58年5月	本郷村誌発刊
62年3月	浅間温泉会館（ホットプラザ浅間）竣工
5月	雁金池跡に市営競輪場開設
平成元年10月	水汲の陸上競技場閉場
3年5月	松本市野球場竣工
4年7月	長野県文化会館が陸上競技場跡に開館
6年4月	松本市役所本郷支所・公民館新築移転

本郷地区の重要文化財

昭和44年5月	桜ヶ丘古墳出土金銅製天冠　県宝
50年11月	伊和神社のケヤキ群　市文化財
55年3月	水野家　廟所　市文化財
57年12月	稲倉城跡　市文化財
60年7月	御殿山小笠原家廟所　市文化財
63年3月	神宮寺木造薬師如来坐像　市文化財

浅間温泉第7町会　陽だまりサロン

県営団地公民館にて、11月25日に陽だまりサロンが開催されました。10名程の参加でしたが、最初に地区生活支援員の小口さんより馴染み深い「ふるさと」を歌いながら、指を動かす体操を行っていただきました。皆さん苦戦していましたが、笑顔があふれていました。

北部包括支援センターの小澤さんからは、「人生会議とリビングウィル」についてお話ししていただきました。「人生会議」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称です。意味するものは、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族や医療・ケアチームと話し合い取りくむことです。またリビングウィルとは、人生会議で話し合われた人生の最終段階に自分がしてほしい、あるいはしてほしくない医療やケアの内容を書面に記しておくものです。二つの言葉は共にほとんどの方がご存知なく、丁寧に最後までご説明いただきました。

現在のコロナ流行で、もしも自分が、家族がと考えさせられるものがありました。参加された方々も真剣な眼差しで聴かれていました。

横田公民館の運動会廃止に

横田第三、五、六、七町会では、公民館活動として毎年秋に運動会を開いてきました。その名も『横田公民館家族ぐるみ大運動会』。半世紀以上の長い歴史がありました。

その歴史も少子・高齢化のため参加者の減少に悩まされてきました。四町会では昨年3月にその存続を決めるためのアンケートを実施しました。

全470世帯の約7割の方に回答をいただいた結果、存続の希望はたった7パーセント、圧倒的多数の世帯が廃止を望んでいました。この結果を受けて公民館は今年度の総会で運動会は廃止としました。時代の流れと言えばそれまでですが、長い間横田の四町会の皆様の交流の場となっていただけに、惜しまれてなりません。

昨年度の第53回は台風による強風のため中止したので、結局昭和から平成を最後に幕を下ろすこととなりました。

平成30年9月25日：最後となった第52回運動会の開会式

今西古東「慣れること」

心理学用語に『馴化（じゅんか）』という言葉があります。『慣れ』のことです。2020年は人々の生き方が、新型コロナウイルスよって変転した忘れがたい年となりました。会いたい人に会えず、移動の自由も制限される。今までの〈普通〉がどれだけ尊いものだったのかと今更ながら痛感します。

疫病の猛威は世界中を席巻し続けています。私たちはコロナウイルスとの共生に向けて意識を切り替える必要があるのかもしれません。そこで恐れるべきは馴化です。共生とはその存在に慣れるのではなく、常に気配を感じながら様変わりした暮らしを粛々とこなすことが大切な気がします。

馴化ではなく順応する事。過去でも未来でもなく、今の自分がどういう状態なのかを気にする事で、心身の健康を維持し、来たるべきポストコロナ時代をしなやかに生きる事が出来るでしょう。今はその下準備だと思えば、制限された暮らしの中で何が出来るのか、自ずと見えてくるような気がします。